

## 第10回 長安ロダム環境モニタリング委員会 議事概要

### 1. 日付、出席委員：

- 令和2年2月25日（火） 木下 覺（徳島県植物研究会 顧問）  
令和2年2月26日（水） 河口 洋一（徳島大学大学院 准教授）  
山中 亮一（徳島大学 講師）  
湯城 豊勝（阿南工業高等専門学校 名誉教授）  
令和2年2月27日（木） 松田 春菜（四国大学 講師）  
山田 量崇（徳島県立博物館 学芸係長）  
令和2年7月14日（火） 小林 實（（元）河川・溪流環境アドバイザー）

※新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、各委員への持ち回り審議をもって委員会に代えた。

### 2. 配付資料：

- 資料2 長安ロダム改造事業の進捗状況 [概要版]  
資料3 環境モニタリング調査の基本方針及び調査方針 [概要版]  
資料4 長安ロダム改造事業に係る  
令和元年度モニタリング調査の実施状況及び評価結果 [概要版]  
資料5 供用後の環境モニタリング調査計画（案） [概要版]  
資料6 長安ロダム改造事業に係る令和2年度モニタリング実施計画書（案） [概要版]

### 3. 議 事：

- (1) 長安ロダム改造事業の進捗状況について
- (2) 環境モニタリング調査の基本方針及び調査方針について
- (3) 令和元年度モニタリング調査の実施状況及び評価結果について
- (4) 供用後の環境モニタリング調査計画（案）について
- (5) 令和2年度モニタリング実施計画（案）について

### 4. 議事概要：

第10回長安ロダム環境モニタリング委員会において、長安ロダム改造事業の進捗状況、環境モニタリングの基本方針及び実施状況、令和元年度モニタリング調査の実施状況及び評価結果、供用後の環境モニタリング調査計画（案）、令和2年度モニタリング実施計画（案）について審議を行った。

(1) 令和元年度モニタリング調査の実施状況及び評価結果について

【騒音・振動】

- ・特になし。

【水環境】

- ・ダム湖底層の貧酸素化の改善については、特に夏季のD0の状況に留意するとよい。

【植物】

- ・植物の移植やモニタリング調査は、熱心に取り組んでおり、保全措置等の効果も十分確認できている。
- ・ナンゴクウラシマソウのモニタリング調査を終了することについて了解した。
- ・アセス時の確認数と現状の自生も含めた生育数との割合と、活着が良好であること等を踏まえて、モニタリング調査の終了に関する資料を整理するとよい。

【猛禽類】

- ・これまでの調査結果等から、工事による猛禽類への影響は小さいと考えられる。
- ・クマタカは今年も確認されており、この結果を含めて確認回数等で工事による影響を評価することも考えられる。

【下流河川調査結果】

- ・蛇ヶ淵より下流域では、砂が多く、砂より粒径のやや大きい河床材料が少ないため、出水により底生魚が流されやすいと考えられる。底生魚の個体数の減少は、これが要因の一つの可能性はある。

(2) 供用後の環境モニタリング調査計画（案）について

- ・ダム下流～日野谷PSの水質に変化を確認するため、小浜大橋付近での水質調査を継続した方がよい。
- ・猛禽類調査については、供用開始後2年程度継続し、調査地域はこれまでと同様に長安口ダム周辺でよい。
- ・底生動物調査や付着藻類調査については、委員にアドバイスをもらいながら選択取水設備運用後のデータの比較を行うとよい。

(3) 令和2年度モニタリング実施計画（案）について

- ・ラン科Bの移植先は、既往調査で確認している自生地でよい。
- ・水質の評価のため、水質調査のデータ欠測をなくしていくことが望ましい。

以上の議事を踏まえ、令和元年度モニタリング調査の評価結果および供用後の環境モニタリング調査計画、令和2年度モニタリング実施計画は了承された。

(以上)